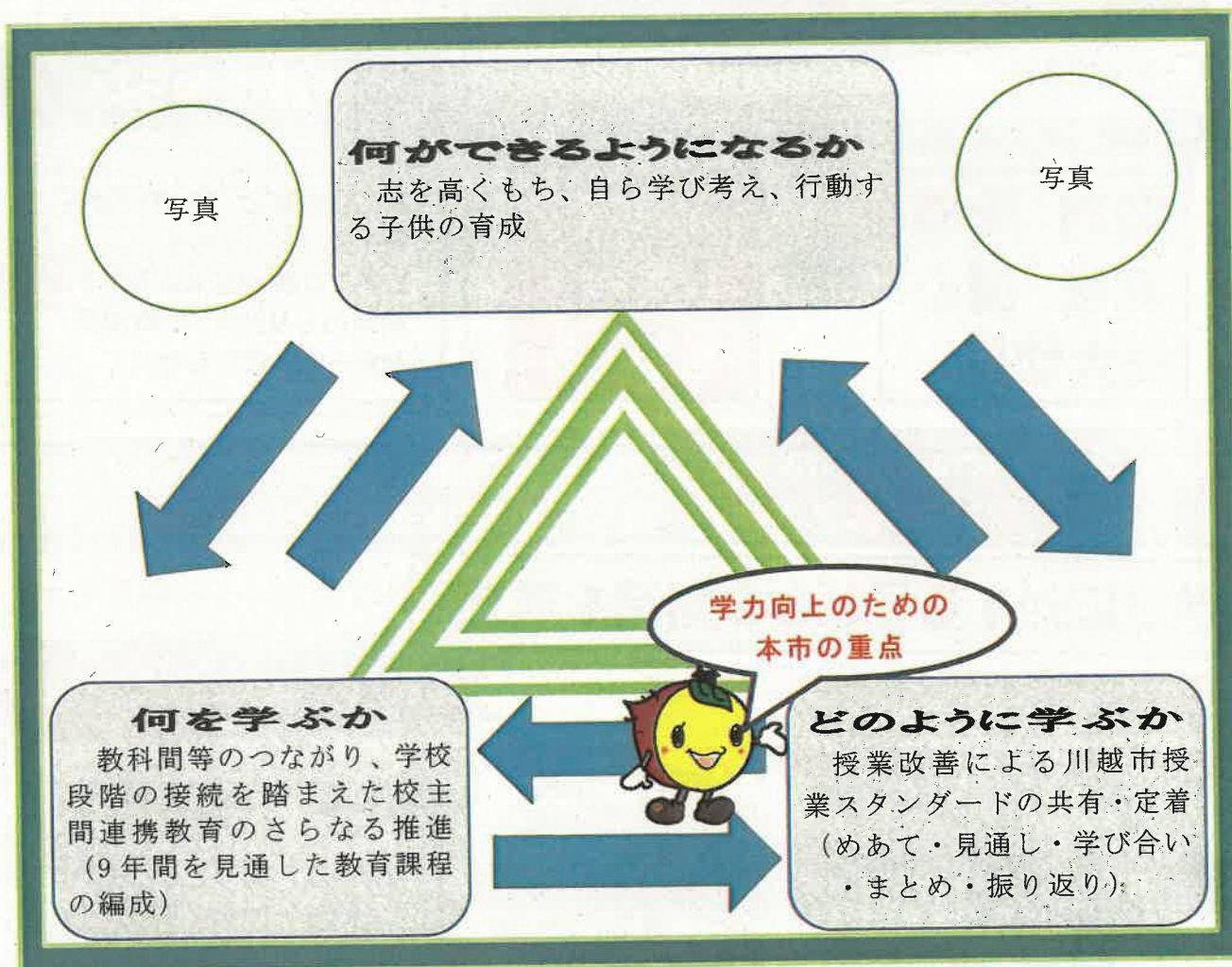




川越市小・中学生 学力向上プラン (案)



令和2年4月
川越市教育委員会

学力調査結果、質問紙調査からみる、授業スタンダードの状況は



平成31年度全国学力・学習状況調査
平成31年度埼玉県学力・学習状況調査
結果より

【全国学調】
〈小学校（6年生のみ実施）〉

	国語	算数
川越	59	63
全国	63.8	66.6

〈中学校（3年生のみ実施）〉

	国語	数学	英語
川越	73	59	55
全国	72.8	59.8	56.0

全国学調における国語、算数・数学の正答率は、小中学校ともに、同程度またはやや下回る結果となっています。

【県学調】

実施教科	実施学年	小学校			中学校		
		4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生
国語	市平均	54.0	48.9	60.8	62.8	59.2	54.0
	県平均	56.1	52.3	62.2	63.3	59.3	53.4
算数/数学	市平均	69.3	66.7	60.7	60.0	61.1	58.8
	県平均	70.2	68.2	61.5	59.8	59.8	58.2
英語	市平均					56.1	55.4
	県平均					56.3	55.8

県学調における小学校の正答率は実施学年・教科で下回る結果となっています。中学校の正答率は、同程度もしくは上回る結果となっています。

右の調査結果では、学校と児童生徒の回答に差がみられる項目もあります。その差を埋める授業改善が必要です。

目指す子ども像

～志を高くもち
自ら学び考え、行動する子ども～

川越市の授業改善を支える4つの教育力

【学校の力】

落ち着いた学習環境で子どもを育てる学校の教育力

【地域の力】

学校・家庭・地域の連携を深め、地域ぐるみで子どもの学びを支援する地域の教育力

【教師の力】

子どもの実態に応じ、一人一人のよさを認め、伸ばす教師の教育力

【家庭の力】

子どもの健やかな育ちの基礎であり、全ての教育の出発点である家庭の教育力

授業改善

授業スタンダードの

共有・定着

学力向上＝授業改善×学級経営

安心して発言ができ
学び合える雰囲気づくり

「対話・協働的な学び」を
創る手立て・活動

・児童生徒が集中する体制が整ってから学習活動を行う
・間違えても笑われない「場」、安心感のある「居場所」づくり

・思考ツール等を活用し、学び合いを可視化していく
・発表に対して、自分なりの理解をさせて、発表する

児童生徒の心が育ち学ぶ意欲が高まり自尊感情がもてる

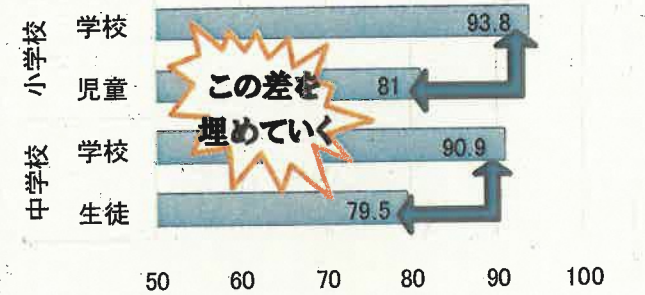
安定と活力のある教室

一人一人の存在を大切に

平成31年度全国学力・学習状況調査
平成31年度埼玉県学力・学習状況調査
学校・児童生徒質問紙より

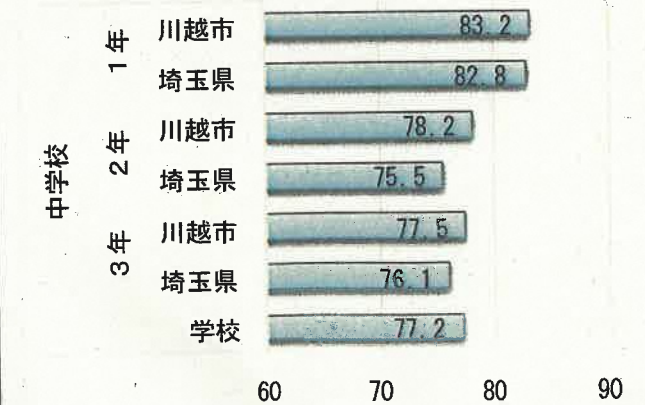
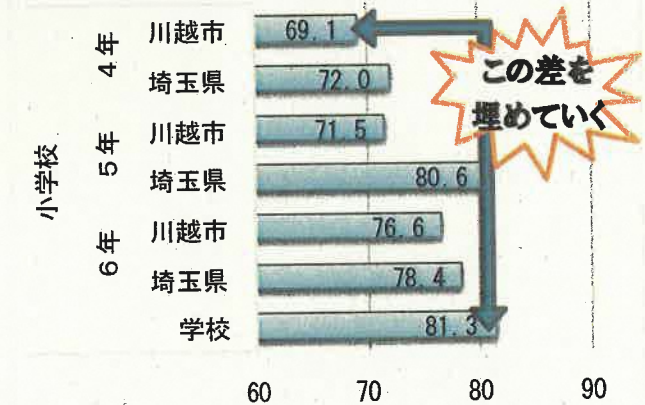
【全国学調】
〈小学校（6年生のみ実施）〉
〈中学校（3年生のみ実施）〉

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか

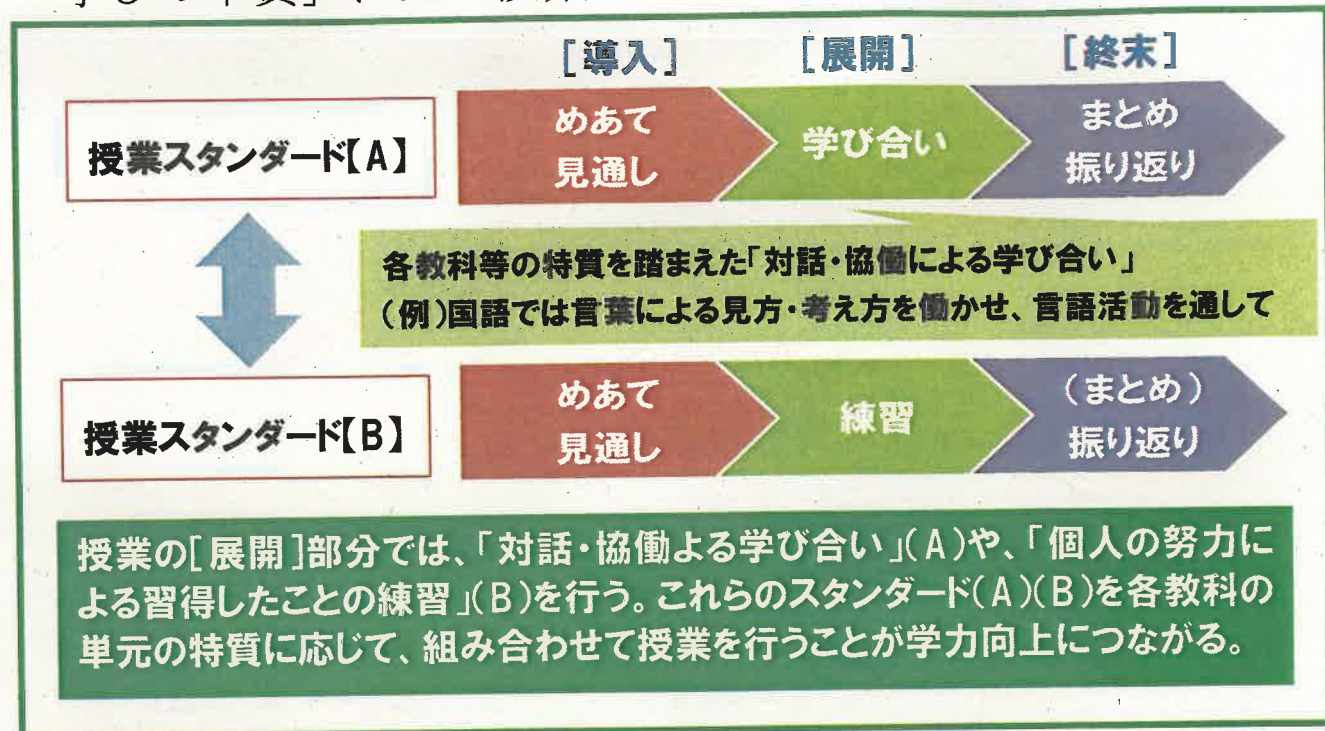


【県学調】

・授業の始めに、先生から、どうしたらか問題を解決できるか考えるように言われることがあったか（児童生徒）
・学習の目標（めあて）を示した後に、自ら解決方法を考えさせる発問をしていたか（学校）



「学びの本質」に立つ授業スタンダードの具現



授業を充実させるのは教員の役割

教員は、児童生徒の協働的な活動がスムーズに進むように、また、成果が上がるように支援する「ファシリテーター」である

【ファシリテーターとしての役割】

- ① 問いかけによって考えや意見を引き出す
- ② 合意に向けて論点を整理する
- ③ 具体的な提案をしてモチベーションを高める
- ④ 多様な意見を引き出して協働、企画、創造を促す

どうすればいいですか

ここで一度整理をします

こんな方法もありますよ

別の方法はありませんか

教師の教育力の中核は授業における指導力である

1. 導入 めあて

「めあて」は「本時の学習の確認」

問題 → めあて → 見通し

何を学ぶかを意識させる

何を学ぶかを意識する

今日は～をするのだな

○何をするか
○何ができるようになればよいか 分かる

疑問 問題 興味 関心 を大切に → めあて (課題) をつくる

めあて

まとめ

本時のねらい

まとめと正対していますか？
何をすればよいか、めあてを読めばわかりますか？
前時のふりかえりに時間がかかっていませんか？

2. 導入 見通し

学びに対する子どもの期待を喚起

明確になった本時のねらいに対し、
解決に至るまでの道筋を検討して、期待を高めます

問題 → めあて → 見通し

どのようにすれば解決できそうですか？

何をどんな順番でやればよいですか？

どんな結果になりそうですか？

どのくらいかかりそうですか？

「めあて」が確認されて、「見通し」が立てられる
様々な見通しがある

- ・方法の見通し
- ・手順の見通し
- ・結果の見通し
- ・時間の見通し

*それらについての自分の可能性、期待や予感

見通しは子どもが気になる状態をつくり出すこと

3. 展開 対話・協働

学び合いは可視化することで 活性化する



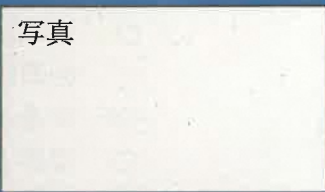
他者とのやりとりを通じて、思いや情報、考えなどを共有し、相互理解や認識を深めたり、合意を形成したり、共に実践したりする営みや過程

思考そのものを可視化

手立ての例

- ・思考ツールを使い、思考を深め、表出 ・グループの思考過程や結論をホワイトボードへ
- ・個の考えをカードやふせんへ ・板書による発言や授業過程の整理 など

写真

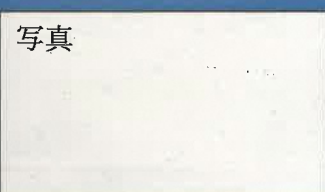


1人1人の存在を可視化

手立ての例

- ・名前カードを移動させ一人一人の状況や考えを表明 など

写真

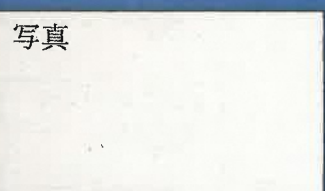


思考の流れや深まりを可視化

手立ての例

- ・おらいに応じてカードやふせんを比較、関連付け、分類してタイトルをつける
- ・おらいに応じて考えや意見を選択、順位付けする など

写真



熟考・確認！

グルーピングは？学習形態は？人数は？時間は？
形骸的な話し合いで終わらないように！

広がった！まとまった！深まった！わかった！の実感へ
自己肯定感・有用感の強化 学ぶ喜びの実感を

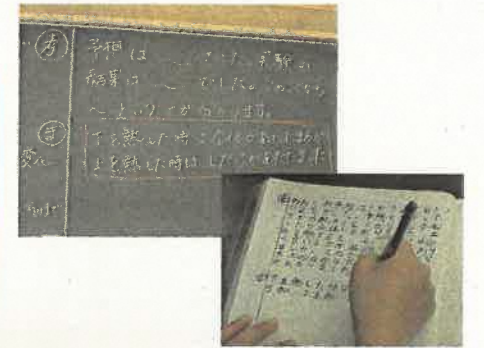
[終末] まとめ



学んだことの整理や確認

- ・板書のキーワードなどを使って全員で行う
- ・ノート等を書いたり声に出したりする
- ・「めあて」と対になる
- ・教師の指導・助言が必要

※まとめの後に練習問題などを組み入れることもある



「まとめ」の後は「振り返り」を行う

[終末] 振り返り



各自の学びの捉え直し・味わい直し

静寂の中で自己と対話する

- ・一人称でノート等を書く
- 「私は～ということが分かり、よかった」

振り返り(リフレクション・省察)は、学びを定着させ、実感させるために重要

- ・毎時間の振り返り
- ・単元の途中や終わりでの振り返り

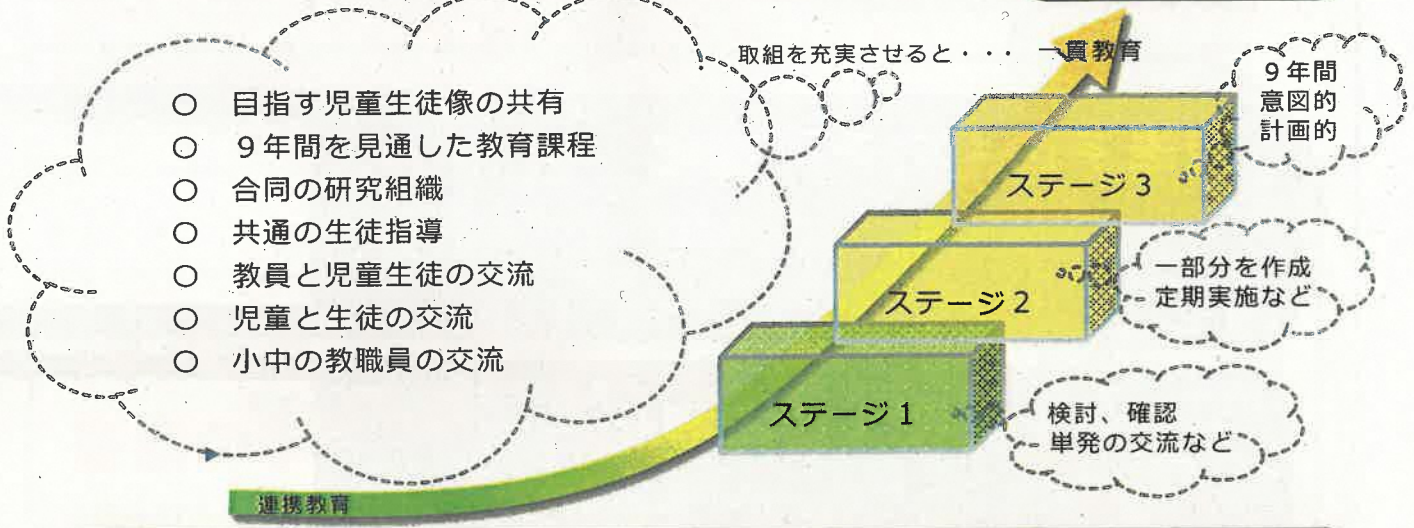
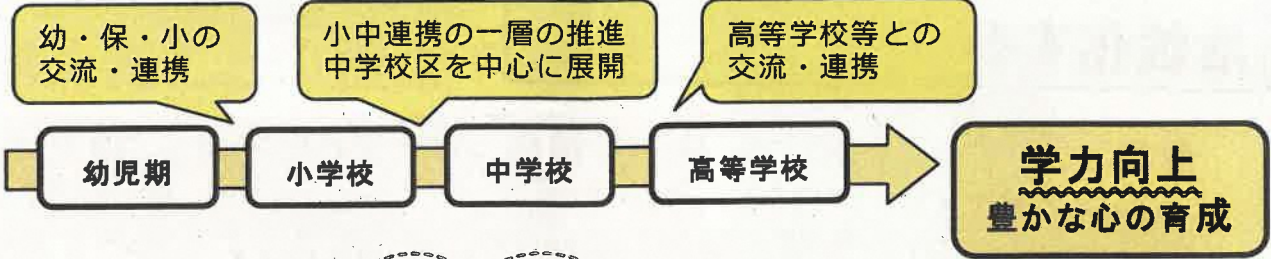
- ・理解の状況の自己診断
とてもよく分かった
- ・取組の姿勢・態度の自己診断
最後までがんばった
- ・学びの過程の自己診断
初めは分からなかったけれど
- ・理解の捉え直し
もっとよいやり方に気が付いた
- ・満足感や充実感等の味わい直し
時間が短く感じた
- ・次の学びへの期待、思いや願い
もっとやりたくなった



終末の「振り返り」は前時の「振り返り」とは別の活動である
「めあて・見通し」「学び合い」「まとめ・振り返り」で学びの好循環をつくる



校種間連携教育の更なる推進 ～連携教育から一貫教育へ～



- 目指す児童生徒像の共有
- 9年間を見通した教育課程
- 合同の研究組織
- 共通の生徒指導
- 教員と児童生徒の交流
- 児童と生徒の交流
- 小中の教職員の交流

令和2年度の重点

- ① 9年間を見通した教育課程の研究
- ② 合同の研究組織や共通指導項目の研究

項目	数と式	図形	関数	データの活用
小学1年～4年 【基礎期】	○ 9年間を見通した教育課程 9年間を基礎期、拡充期、発展期の3つに分け、それぞれの段階に応じた育てたい力を各教科で領域毎に示した。 (霞ヶ関小・霞ヶ関中学校・霞ヶ関南小学校)			
小学5年～中学1年 【拡充期】				
中学2年～中学3年 【発展期】				

○ 合同の研究組織
 目指す児童生徒像に向け、合同の研究組織を作り、部会毎に課題解決を行う。(福原小・中学校)

○ 共通指導項目
 小・中共通の授業の約束を作成し、児童生徒が自分の机に貼るなどして、常に意識できるようにした。
 (霞ヶ関小・霞ヶ関中学校・霞ヶ関南小学校)

※上記の進んだ取組を参考に、重点①②について取り組むようにする。